令和元年度　主題研究推進計画

北九州市立貫小学校

１　研究主題

複数教科における「授業改善の５つのポイント」をふまえた授業づくり＜２年次＞

２　研究の方向性

小さな成功体験の積み重ね（できる）　＜全員参加＞

【教える】　↓　　↑　【ほめる】

学習内容の理解（分かる）　＜全員達成＞

↓　↓　↓

適用題を解くことで実感「できた！」「分かった！」　＜全員成長＞

「できた！」「分かった！」と児童全員が実感するために、児童の実態を適切に把握し、それに応じた指示・発問や板書、学習過程などを工夫した指導と評価の一体化がなされた授業づくりを目指す。

３　主題設定の理由　（略）

（１）社会的要請から

（２）人権教育の視点から

（３）本校児童の実態から

（４）本校学校教育目標の具現化から

（５）昨年度までの研究の成果と反省から　　平成３０年度研究紀要　参照

４　研究の仮説

「授業改善の５つのポイント」をふまえ、次の３点に留意して学習を展開していけば、児童全員が「できた！」「分かった！」を実感することができるであろう。

＜着眼１＞「学習に取り組む意欲」につながる導入の場の工夫

【授業改善の５つのポイント　１、３】

＜着眼２＞「自ら考え、判断し、表現する力」につながる展開の場の工夫

【授業改善の５つのポイント　２、３、４】　※今年度の重要視点

＜着眼３＞「基礎的・基本的な知識・技能の定着」につながる終末の場の工夫

【授業改善の５つのポイント　２、５】

５「授業改善の５つのポイント」とは

（１）「学び合いの基盤」

〇共感的人間関係を育てる

・「聞き方・話し方」の掲示物を用いての指導

・「発表の仕方」の指導（低・中・高ごとに教室掲示）

〇学びの基盤を支える学習規律

・貫小三則（あいさつ、時間、清掃）

〇学びに向かう環境づくり（既習事項の掲示等）

（２）　板書には、必ず「めあて」、「まとめ」と「振り返り」

〇内容が構造的に整理されている板書

・問題解決学習の学習課程

問題把握→めあて→見通し→個人思考→集団思考→まとめ→振り返り

・掲示用カード・・全クラスに配布

〇授業中に子どもたちの考えが関連づけられ、「まとめ」につながっている「めあて」

・矢印・囲み・観点等を使って、「シンプル」「クリア」な板書

（３）　子どもの思考を深める「発問」の工夫

〇明確な指示・発問　→　教師の言葉を精選・削除する。余計なことを言わない。

・既習事項の確認の段階で（児童が解いてみたいと思えるような指示・発問）

・個人思考の段階で（何をどのように解決させるのか、見通しをもたせる指示・発問）

・集団思考の段階で（様々な考えを引き出し、思考を深めさせ広げる問い返し）

（４）　１単位時間の中に「話し合う活動」と「書く活動」

〇１単位時間の授業の中に、「主体的に考え、話し合い、書く」というサイクルを定着させる。

・見通しをもたせ、まずは「自分の考えを書く」→　書けない児童への支援

速く正確に書く、自分の考えを自分の言葉で書く、習った漢字は使う

・ペア学習・伝え合いグループ学習・全体交流等の場の工夫

何のための話し合いかを明確にして、話し合いの時間確保（３分以上）

これまで本校が道徳教育で培ってきた「自分の考えを書く」「交流」を活かした活動

（５）「まとめ」と「振り返り」終わりの５分の確保

〇学習のまとめは、子どもの言葉を使ってまとめる

・「めあて」と対応した「まとめ」

〇学習を振り返り、子ども自身が自己評価をする

・自己評価としての振り返り　→　担任の評価へ

・振り返る視点の明確化（何をどのように振り返るのか）

６　仮説実証のための具体的な方策

（１）「学習に取り組む意欲」につながる導入の場の工夫

◇　既習事項をもとにした効果的な導入（明確な問題意識・目的意識）

・「授業のスタートライン」（レディネス）をそろえる。

◇　身につけさせたい学習内容の焦点化（分かりやすいめあて）

・「考えの違い」「自信度のばらつき」から共通の問題を設定する。

◇　明確な指示・発問（何をどのように解決させるのか）

◇　児童の実態に応じた教具や手立て　　など

（２）「自ら考え、判断し、表現する力」につながる展開の場の工夫

◇　自力解決の場の設定

・自分の考えを明らかにして、見通しをもたせる。

◇　児童の思考過程を見取るための適切な机間指導

・個々の考えを表出できるように、ノートやワークシートを工夫する。

◇　集団解決の場の設定（考えのよさの交流）

・理解が遅れがちな児童を主役にして、他の児童の説明能力を高める。

・間違いを意図的・共感的に取り上げて、全員の思考を深める。

・友達の発言、教師の問いかけに正対する対話の仕方を教える。

◇　算数科における板書の可視化・構造化（児童の思考の具体化）

・「シンプル」「クリア」な板書を行い、多様な考えを整理する。　　など

（３）「基礎的・基本的な知識・技能の定着」につながる終末の場の工夫

◇　手立てに対応した目指す児童の姿【評価規準】の想定

・評価としてほめる。意欲をもたせるためにほめる。

・「分かったこと・気付いたこと・思ったこと」などを書かせる振り返りの活動を設定する。

◇　適用問題・練習問題を解く時間の確保・内容の工夫

・答えを求めるものばかりでなく、答えの求め方・考え方を問うような問題を計画的・意図的に準備する。

・練習量をただ単に多くするのではなく、練習の目標を明確にし、その内容の精選や重点化を図り、「できた！」「分かった！」が実感できる練習の工夫や場の設定をする。

◇　家庭との連携（宿題や自主学習ノートの工夫）

・学習した内容が家庭にも伝わるように、家庭と連携・協力して、学習習慣の定着を図る。

７　年間予定（６／４現在）※授業日は多少前後するかもしれません。

４月　研究主題と研究推進案の作成（永溝）　研究推進案の検討（主題推進委員会）

５月２９日（水）授業公開学年の日程調整

６月　５日（水）主題研修（提案）

６月２８日（金）提案授業兼代表者授業６校時（永溝）※学体向上推進室指導主事来校

８月 夏季休業日中　授業相談会（指導案検討会）　※任意

９月１０日（火）１年Ｂ（平良）国語

１０月　２日（水）５年Ｂ（小田）算数

９日（水）３年Ｂ（永田）算数

１６日（水）６年Ａ（田中）算数　※小井出指導主事来校

２３日（水）２年Ａ（井上和）特活　※江口先生（永犬丸小学校前校長）来校

１１月１９日（火）４年Ａ（三田）算数　※講師要請中

１２月　研究のまとめと研究紀要原稿の作成

１月　研究紀要の作成（ＣＤにする予定）　主題研究の振り返り　来年度について

８　授業公開の形態（全学級が授業を公開する）

Ａ研　低・中・高学年より各１名

・全職員で授業を参観し、協議会を持つ。

・講師を招く。

Ｂ研　Ａ研をしない学年より各１名

・管理職、研究主任、近接学年及び希望者で授業を参観し、協議会を持つ。

・必要があれば、講師を招く。

Ｃ研　Ａ研もＢ研も行わない者

・管理職、研究主任、同学年で授業を参観し、Ａ研につながるように協議会を持つ。

・講師は招かない。

※　授業の記録（写真など）や協議会の進行・記録は近接学年で行う。

９　指導案の形式（別途提案済）

算数の板書型指導案については、６月２８日（金）の代表者授業で示します。